

第7回厚生文教常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和4年8月2日(火曜)		午後 1時30分 開会
	休憩 13:40-13:41、13:47-13:49、14:39-14:55、15:42-15:43		
			午後 3時52分 閉会
	休憩時間: 0時間20分		会議時間: 2時間02分
会議場所	3階委員会室		
出席委員 氏名	委員長 渡辺洋一郎	委員 堀切 忠	
	副委員長 黒田 栄継	委員 西尾 一則	
	委員 常通 直人		
	委員 柴田 正博		
	委員 正村紀美子		議長 早苗 豊
説明員	健康福祉課長	大野 邦彦	公立芽室病院事務長
	社会福祉係長	上嶺 寛	公立芽室病院参事
	社会福祉係主査	角 諭志	総務係長
	保健推進係長	吉川 泰子	医事係長
	保健推進係主査	竹内 名恵	経営企画係長
	保健推進係主査	中元 麻実	経営企画係主査
参考人			
欠席委員 氏名	委員 橋本 和仁		
事務局職員	総務係長 佐藤 史彦	総務係主査 上田 瑞紀	

『会議に付した事件と会議結果など』

1 開会

- ・委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

2 議件

(1) 調査事項

ア 新型コロナワイルスワクチンの接種状況等について 資料1

- ・健康福祉課長: 資料説明<令和4年度第4回厚生文教常任委員会(令和4年6月23日)以降の各種状況の変更点について説明。4回目追加接種、3回目追加接種、初回接種、接種体制、オミクロン株対応ワクチン、接種状況(7月29日現在)>。
- ・委員長: 意見・質疑はないか?
- ・常通委員: 国において副反応の出にくいワクチンを進めているが、本町はどうか。
- ・健康福祉課長: ノババックスワクチンの取り扱いは可能となっている。他のワクチンと異なるオペレーションになることから、医療機関とも調整した結果、現場の負担が大きくなる可能性もあることから、町内医療機関での取り扱いはしないこととした。帯広市などで接種希望があれば対応できる旨の周知は検討する。

- ・委員長：他にないか？
- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：以上で調査事項「ア」を終了する。

イ 高齢者世帯等生活支援事業の実施について 資料2

- ・健康福祉課長：資料説明（事業目的、事業対象、助成額、補助率、実施時期）
- ・社会福祉係長：資料の詳細説明。
- ・委員長：質疑・意見はないか？
- ・堀切委員：助成額の根拠は芽室町で実施したものか。
- ・社会福祉係長：国の調査に基づくもの。
- ・正村委員：対象世帯数の見込みは。
- ・社会福祉係長：844世帯を見込む。
- ・正村委員：申請方法はどうなるか。
- ・社会福祉係長：対象を把握して通知し、申請してもらう。
- ・西尾委員：生活保護世帯は対象か。
- ・社会福祉係長：条件に合致する方であれば、生活保護世帯も対象となる。
- ・委員長：他にないか？
- ・(質疑・意見なし)
- ・委員長：以上で調査事項「イ」を終了する。

ウ 公立芽室病院の経営状況（令和4年度第1四半期）について 資料3

- ・事務長：概要説明。経営改善が功を奏し好調を維持している。コロナ対策の収益も見込んでいるが、陽性率も高まっており、深刻な課題となっている。アクションプランに沿って進めていく。アメーバ経営の導入を研究中。地域包括ケア病床増設するなど改革を進めているところ。
- ・総務係長：第1四半期決算状況を説明。委託業務の終了により経費は減少しているが、燃料費の高騰など今後増額に転じる可能性がある。
- ・医事係長：診療科別の状況を説明。昨年はクラスターの影響で入院患者が減少してたことが、今年度の伸びにつながったもの。PCR検査の価格が減少したため、1人当たりの単価も減少している。27床がコロナ病床であり、80床が稼働できる状況の中、稼働状況は80床以上と高くなっている。コロナ以前の患者数に戻っていると分析している。
- ・委員長：質疑・意見はないか？
- ・正村委員：アクションプランの質疑は可能か。
- ・委員長：アクションプランについて先に説明願う。
- ・事務長：アクションプランの進捗状況について説明。
- ・正村委員：職員給与費について、アクションプランに示される医業収益比率を挙げているが、目標はどこに設定しているか。
- ・事務長：分母の収入を増加させることにより改善していく。人件費を下げていくことにはならない。50%を超える程度が良い状況といえるが、道内でも数える

ほどしかない。収支の均衡を図っていくことを中心に据えている。

- ・正村委員：地域包括ケアを進めることができが目標と捉えている。人件費の削減を言っているのではなく、収益との関係性では人件費の比率が大きい。人件費は仕方のないことと考えて進めるのか。
- ・事務長：医業収益が減少していることが要因となっている。病院全体で考え黒字化に向けて改革しているところ。部門別会計管理システムにより経営改善を進めていく。給与を下げる、人員を減らす、収益を上げるという選択肢はあるが、収益を上げていくことを念頭にしている。
- ・正村委員：管内でも高い人件費率ではないとの発言はあったが、利益を生まない部分の使命についてどのように考えているか。
- ・事務長：コロナ禍の中で収益が下がり、人件費が浮かび上がっているという面がある。医師も看護師も確保しなければ病院は成り立たない。適正な人数がどこかは課題である。どの年齢層の職員が必要かなどの検討は進めてきた。一方で経験年数不足によるサービスの質の課題も出てくる。病院経営をコストだけではなく医療の質でも考えていかなければならない。
- ・正村委員：病床稼働について、コロナ病床がなくなった後に95.4%を目指すための考え方。
- ・事務長：当初予算の目標ではコロナ病床も含まれるもの。27床が戻った場合は地域連携室の役割が重要になってくる。各施設と調整しながら町外患者も含めて進める。療養病棟もアフターコロナを見据えて動いている。
- ・常通委員：アクションプランの壁・トイレ整備などについて、労働環境の整備とのつながりは。
- ・事務長：公共の空間であり、照明も含めて患者・職員双方の環境改善という意味合い。
- ・黒田委員：運営体制の検討について、どのような経緯で全部適用を目指す方針となつたのか。
- ・参事：国の指針も踏まえ、検討会議の中で、全部適用を検討していくことになった。
- ・正村委員：新規の患者を増やす必要がある。在宅にかかる人材育成はどう考えているか。
- ・事務長：旭川医大と連携した育成を進めている。始まったばかりであり、今後も適宜説明する。
- ・委員長：他にないか？
- ・(質疑・意見なし)
- ・委員長：調査事項「ウ」を終了する。

エ 部門別原価管理手法導入について

資料4

- ・事務長：資料説明（システムの特徴、収入算定方法、PDCAサイクル、成果、課題、具体的方策、プロジェクト活動）
- ・委員長：質疑・意見はないか？
- ・黒田委員：部門間の競争につながらないことが重要と感じた。職員全体でやっていく

という合意形成はどのようにしていくか。

- ・事務長：公立邑智病院から研修講師を招聘し、多数の職員が参加している。浸透してから最終決定につなげたい。
- ・黒田委員：プロジェクトメンバーの人選によっても進み方は変わってくる。検討しているか。
- ・事務長：邑智病院も参考に、芽室病院に合った形にしていきたい。
- ・常通委員：委託先は邑智病院と関連があるところか。
- ・事務長：委託先は限られてくると考えられる。
- ・常通委員：1年間の委託があれば、その後は自前という考え方か。
- ・事務長：導入後もシステムの保守点検は想定される。
- ・正村委員：職員の事務量が増加するのではないか。
- ・事務長：オーバーベットが続き、看護師の負担が増えているのは事実。1階の看護師が応援に入っているのが現状。診療科もワクチン接種に協力しており、協力体制が大幅に向かっているため、システム導入もスムーズに行えると期待している。
- ・正村委員：補正予算が想定されるが、良いものは補正でどんどん改善していく考え方か。
- ・事務長：事業会計として、年度途中でも必要な改善は行っていく。良いものは早く取り入れていく。収益が上がっている状況のうちに改善できることを行っていく方針。
- ・委員長：他にないか？
- ・(質疑・意見なし)
- ・委員長：調査事項「エ」を終了する。

オ 公立芽室病院病棟機能変更（案）について 資料5

- ・参事：資料説明（当初移行案、変更案、変更理由、移行期の確認、課題）
- ・委員長：質疑・意見はないか？
- ・堀切委員：慢性期から回復期に変わってきた。経緯を詳細に説明願いたい。
- ・参事：2病棟を慢性期としていたが、訪問診療・看護を進める中では回復期に対応した方がニーズを満たせるとの考え方。
- ・常通委員：地域包括ケアでの需要があるという考え方。
- ・参事：大規模病院で治療後に、一旦芽室病院で回復してから自宅に帰るという流れに加わるもの。
- ・常通委員：一般を増やした理由。
- ・参事：包括の機能を3階に移動したことにより、2階を一般にしたもの。包括ではリハビリの強化も必要となることから、ATLを向上させる必要がある。
- ・黒田委員：十勝の中の芽室病院として役割を果たしていく考え方か。
- ・参事：公的病院としてはコロナ対応が現時点では第一と考えている。
- ・委員長：他にないか？
- ・(質疑・意見なし)
- ・委員長：調査事項「オ」を終了する。

力 公立芽室病院施設整備予定について

- ・総務係長：トイレ、待合ホールの改善を進める。9月初日提案できるよう進めている。トイレ（天井・壁・床・換気能力向上、洋式便器）、ホール（LED化、壁の塗り替え）
- ・委員長：質疑・意見はないか？
- ・常通委員：1階のみの改修か。
- ・事務長：全て実施したいが、外来患者が多く臭いも気になる1階から進めていく。
- ・常通委員：早急な対応を願いたい。
- ・事務長：長寿命化計画で考えると、上層から順に行うべきとの指摘もあるが、まずは1階から進める。改修等も検討しなければならないが、手戻りがないように考えていきたい。
- ・正村委員：他の指摘された部分も適宜改修するのか。
- ・事務長：経営も考慮して修繕できない状況があったが、患者のためにも改善していくたい。待合部分の環境整備を優先。大規模となる部分は計画的に行いたい。
- ・委員長：他にないか？
- ・(質疑・意見なし)
- ・委員長：調査事項「力」を終了する。

・委員長：自由討議についてお諮りする。調査事項「ア」について、いかがか？

- ・常通委員：適宜調査すべき。
- ・黒田委員：定期的に行ってきただが、国の方針も検討中であり、継続調査すべき。
- ・委員長：他にないか？
- ・(異議なし)
- ・委員長：引き続き定期的に調査することに決定する。

・委員長：調査事項「イ」について、いかがか？

- ・常通委員：特に論点、争点はない。
- ・委員長：自由討議なしとする。

・委員長：調査事項「ウからカ」について、いかがか？

- ・黒田委員：整備の関係は以前も説明があった。補正提案前に確認できれば良いのではないか。
- ・常通委員：全部適用について勉強会も含めて調査すべき。
- ・柴田委員：整備がどういう内容かの把握は必要。
- ・委員長：適宜調査を行っていくこと、整備内容についての確認を行うことを決定する。

以上で自由討議を終了する。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について

- ・委員長：正副一任とする。

(2) その他

- ・委員長：各委員からないか？
- ・(なし)
- ・委員長：議長からないか？
- ・(なし)
- ・委員長：事務局からないか？
- ・(なし)

以上をもって、厚生文教常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	2名	議員	0名	合計	2名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和4年8月2日

厚生文教常任委員会委員長 渡辺 洋一郎